

仙台市議会

市政活動報告

民主フォーラム仙台

2020年
12月号

仙台市議会議員
(青葉区)

佐藤わか子

〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-5-12 一番町中央ビル3F
TEL 022-266-7577 FAX 022-352-6190



ごあいさつ

仙台市議会議員として22年目に入りました。この間、仙台市民のお役に立ちたいという思いから、一番町に「お困りごと相談室」を開設し、どんな相談にも1件、1件丁寧に誠意をもって対応させていただいてきました。いつも心がけている事は、少しでも改善に繋がるように、手を抜かず全力であたるという事です。また、市民の皆さんの声をしっかり受け止め、議会で積極的に発言し実現に結びつける事が、議員の果たすべき役割だと思っていますので、議会の度に可能な限り毎回質問に立ってきました。この思いを変えることなく、初心を忘れずこれからも仙台市民の幸せのために全力で頑張ってまいります。さらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

仙台市議会議員になってから、20年以上継続して取り組んできた事に、公共施設や公園の禁煙化や灰皿撤去があります。今回は、10月に新聞でも大きく取り上げられた勾当台公園の灰皿撤去についての取り組みをご紹介します。

①禁煙の最初の取り組みは、21年前、市議会議員一年生の時でした。その時、仙台市議会は議場だけが禁煙で他の委員会室はすべてに灰皿があり喫煙がOKでした。他の女性議員の皆さんと禁煙の要望を行い常任委員会室、特別委員会室は禁煙にしてもらいました。

②最近の取り組みとして、1年ほど前、市民の方から仙台市体育館の中庭が喫煙場所になっているのは、子どもも利用する施設としていかがか？という指摘があり、体育館を所管している担当局と、喫煙場所の移転の話を進めてきました。昨年秋に正式に喫煙場所を移転することが決まり、今年の4月から中庭の喫煙場所は廃止し、体育館の外に新たな喫煙場所を設置することになりました。

③勾当台公園の灰皿撤去については、以前から「宮城県タバコを考える会」のメンバーから何度も繰り返し指摘され、その都度青葉区公園課に灰皿撤去をお願いし、市役所向かいの市民広場は全て灰皿が撤去されました。残っていた県庁向かいの野外音楽堂エリアの灰皿3か所は、石のため重く移動が困難だったようです。「タバコを考える会」のメンバーから、再度勾当台公園での喫煙が大変な事になっていると指摘され、青葉区公園課に灰皿の撤去を申し入れていた時、この問題が新聞に大きく掲載され全国ニュースにもなっていました。公園は、学校や病院などと違い、望まない受動喫煙を生じさせないよう配慮する配慮義務の場所です。公園を全面禁煙にすることは、難しい点もあるのですが、管理者（仙台市）の判断で灰皿の撤去は可能ではないかと指摘しています。しかし青葉区公園課は、公園の受動喫煙対策を今検討中なので、灰皿撤去に関しても結論はまだ出せないと言うのです。ここであきらめるわけにはいきません。勾当台公園の灰皿撤去が実現するまで言いつづけます。将来的には、屋外での喫煙、特に公園での受動喫煙対策をどうしていくのかという議論につなげていくつもりです。



話題の灰皿と勾当台公園

お困りごと相談室 (市政に対するご提案・ご要望もお気軽にどうぞ!)

どんなことでもかまいませんので、いつでもお気軽にご連絡ください。

場所：佐藤わか子お困りごと相談室

住所：仙台市青葉区一番町2-5-12 一番町中央ビル3F

電話：022-266-7577 FAX：022-352-6190

E-mail：wakakos@beige.ocn.ne.jp URL：http://www.satowakako.com

月、火、水、金曜日の10時から4時まではスタッフがおります。

それ以外、また緊急の場合は佐藤わか子の携帯にご連絡ください。携帯番号は **090-1060-1254**



9月の仙台市議会第3回定例会で行った一般質問と、それに対する答弁、質問に至った背景と私の考えを簡略しレポートにまとめました。内容はコロナ禍での35人以下学級の実現、利用しやすい病児・病後児保育について、認知症の早期診断に繋がる「ものわすれ健診」、および西部地区のいのしし対策についてです。目を通していただければ幸いです。



～小学校における35人以下学級の 早期実現について～

●私の質問:新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない状況にある。このようなコロナ禍にある学校現場の密を防ぐため、全国で少人数学級を求める声が上がっている。郡市長は、小中学校の35人以下学級の実現を公約し、中学校は実現したものの、小学校は3年生から6年生まで40人学級のままである。新型コロナウイルスの脅威から仙台市の子どもの命を守るため、やれることはやるという気概を持って実現に舵をきるべきではないか?

■郡市長の答弁:今般の新型コロナウイルス感染症で3密を避けることについては、それぞれの学校で対応をしている。少人数学級については、全ての学年で実施するとすれば独自の費用が必要になる。今国の方でも、少人数学級について議論されているので、今後は国の動きを見ていきたい。国の方向性が決まれば、その時は速やかに対応していきたい。

★私の考え:国の方で少人数学級を検討しているとしても、すぐに実現する見通しはない。コロナの状況をみれば35人以下学級はすぐにも取り組まなければならない緊急課題である。国の方向性が決まるまで、仙台市が何もせず待つという事はあってはならない。来年度に小学3年生の1学年だけでも35人以下学級にして、その後、国の動向を注視すべきと考える。引き続き諦めないで言い続けます。

～病児・病後児保育を もっと利用しやすいようにすべき～

●私の質問:子育て中、一番大変なのが小さいお子さんが病気になった時である。頼れる親族が周りにいなくて、病児・病後児保育をお願いするしかないとき、仙台市のやり方は利用しにくいという声が多い。これでは子育てに優しい街とは言えないのではないかとアプリを活用し病児・病後児保育の予約状況がスマホからも見られるようにするなど、他都市でも取り組んでいるサービスを仙台市でも導入すべきではないか?

■仙台市の答弁:予約状況の見える化など、利用者の利便性向上を図るサービスが開始されている事は承知している、他都市の先事例や施設のご意見をふまえ、導入について研究していきたい。

★私の考え:施設の意見を聞くことも必要だが、アプリやICTの導入に慎重な所もあるので、導入に前向きな所だけでも先行的に実施するという事も考えられる。大事なことは仙台市が子育てに優しい街というイメージを広げて、子育てするなら仙台ね。と思ってもらえるような施策を展開する事だ。

～認知症の早期発見・早期 診断につながる 「ものわすれ健診」の 導入について～

●私の質問:近年、認知症の早期発見・早期診断に繋がる「ものわすれ健診」を導入する自治体が増えている。身近な医療機関で、いつでも誰でも気軽に「ものわすれ健診」を受けることが出来る制度で、認知症の早期治療につながることから、仙台市としても早期導入を検討すべきと思うがご見解を伺う。

■仙台市の答弁:ものわすれ健診は、早期診断につなげるための取り組みと認識していますが、診断後に不安な気持ちを抱える方へのフォローアップなど課題もあることから、他都市の取り組み状況を研究してまいります。

★私の考え:高齢になり物忘れが増え不安になっている方のために、早い段階で単なる物忘れか認知症の可能性なのか健診で分かるのであれば、その後の治療に大いに役立つと考える。健診で認知症の疑いがあると判断された方へのフォローアップをしっかりとやれば、効果のある施策と言える。やる前から上手くいかないと、不安ばかり拾ってはいつまでたっても実行出来ないと思う。

～いのしし対策について～

●私の質問:私の地元西部地区はイノシシ被害が大変な状況にある。猟友会にお願いして被害対策実施隊を設置し捕獲に取り組んでいるが、この実施隊の高齢化が深刻です。猟友会全体で80人ほどの過半数が70代以上で10年後が心配です。若い人を募集してもなかなか増えない状況にある事から、他都市で導入して効果を出している取り組みを提案します。それは市職員から希望者を募り猟銃免許を取得してもらい、イノシシの被害対策実施隊として活動してもらう取り組みです。早急に猟友会の若返りを図る必要があると考えるが、ご見解を伺う。

■仙台市の答弁:職員から希望者を募るとのことですが、他都市の事例でも、経験を積むための準備期間があったと聞いている。今後他都市の先進事例を参照し、効果的な捕獲体制のあり方を検討してまいります。

★私の考え:時間がかかる事は充分理解している。だからこそ、すぐに動き出さなければ、猟友会の高齢化は待ってられない。いのしし被害に本気で取り組む気があるならば、職員から希望を募る事も含めて、猟友会の若返りをどのようにして実現するか本気で議論すべきと考える。